

被害にあったら…できること

えっと驚くような不快な思いをさせられた時、ひとりで悩んでいませんか？



ここがポイント

自分を責める必要はまったくありません。他人の行為はあなたの責任ではないのです。あなたは決して悪くありません。悪いのは、あなたを傷つけ、あなたの人権を侵害した加害者です。

1

あなたがされたことについて、記録をつけ、証拠を残しておいてください

2

日頃から信頼している友人や先輩、上司や教員に相談してください

3

文学研究科・文学部の相談員に相談してください
連絡先などは9ページを見てください。

判断の目安

私の問題はハラスメントにあたるのか？

あなたが性的に不快であると感じたこと、意に反してさせられたことはすべてセクシュアル・ハラスメントです。また、教育や研究、就労に関わる場面で、不快であると感じたときや何かを意に反してさせられたときには、場合によってはアカデミック・ハラスメントもしくはパワー・ハラスメントです。何かあったら、それがハラスメントであってもなくても、まず相談してみてください。

プライバシーの保護

対応方法を相談したいが、プライバシーは守られるのか？

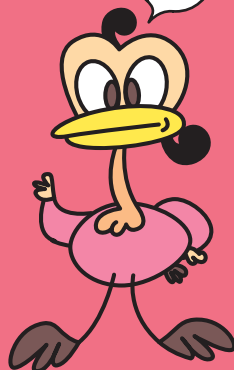
相談員は相談者のプライバシーを固く守り、その内容については任期中も退任後も秘密を厳守します。事実関係の確認や加害者への措置・処分なども相談者の同意がなければ行いません。また、事実関係の確認や加害者への措置・処分の際も、被害者が特定されないよう細心の注意を払います。

相談窓口は9・10ページと裏表紙を見てください。

再発防止対策

加害者への措置・処分が行われれば身近な人たちに自分が被害者であることがわかってしまうのではないのか？

確かにその恐れはあります。知っている人の数は最小限にとどめる努力はしますが、ゼロにすることはできません。ハラスメント問題委員会は、被害者であることがわかってしまったために起こりうる新たな問題(二次被害)を防ぐために予防策を講じ、万が一、二次被害が起きてしまった場合には、ハラスメントと同様に迅速な対応をします。



相談を受けたら…できること

他大学のアンケートによると、ハラスメントの被害者の多くは、まず友人に相談しています。

あなたがハラスメントについて友人から相談を受けたら、よき相談相手であるために、以下のようなことを参考にしてください。

状況の理解

被害者の状況を理解して話を真剣に、丁寧に聴く

ハラスメントの被害について人に話すことはつらいことです。被害者があなたにハラスメントの被害を打ち明けるのは、おそらくその時点で「話をする」という行為が被害者にとって必要だからです。そういう時は「こうすればよかったのにと」「こうすればいい」といった客観的なアドバイスをするよりは、被害者の気持ちに寄り添って、ただ話を聞いてあげるほうが助けになることが多いものです。また、被害者はすべてについて話す準備はまだできていないかもしれません。したくない話を無理やり聞き出そうとははいけません。あなたになら責められることも誤解されることもなく安心して話ができる、そう思ってもらうことが何より大切です。

二次被害の防止

安心して話ができるように配慮し、内容を被害者の承諾なしには漏らさない

相談されたこともその内容も誰にも言うてはいけません。他言することは、何よりも、あなたを信頼して相談した被害者を裏切ることになります。また、ハラスメントの事実を知っている人が増えれば増えるほど、心ない噂や加害者をかばおうとする人たちの発言によって、被害者がさらに傷つく危険が増します。



被害者の意見を尊重

被害者自身の判断を支え、被害者の頭越しに行動しない

ハラスメントを受けた人の気持ちはしばしば揺れ動きます。ある日は裁判に訴えたいと言い、次の日には何もしたくないと言う、というようなことはよく起こります。相談を受けた人は、被害者の気持ちの整理がつくまで辛抱強く待たなくてはなりません。どのような行動をとりたいか結論を出すのを急がせたり、被害者が心を決めないうちに、被害者の頭越しの行動をしてはいけません。どのような行動をとる時も、被害者本人がそれを望んでいて、あなたにそれをやってほしいと思っていることを確認してからにしてください。

適切な対応を依頼

被害者の理解を受けて相談窓口へ依頼する

苦しんでいる人の話を聞くのは、聞く方もつらいものです。どうしたらいいのかが相談されても、知識がなくて答えの出せないこともあるでしょう。そんな時は、相手にそれを正直に話し、ハラスメントに理解のある教師や先輩、大学の相談員、学外の相談機関、カウンセラーや医師のような専門家に相談することをすすめてみてください。相手がその気になったら、相談しに行く時に一緒に行ってあげるのもサポートの形の一つです。あなたが一人で何もかも抱え込む必要はありません